孝経ほう物語

春

內閣文庫
岡田眞之藏書

いとはむかしの中納言なる人のむすめあまたもちて人給はれたりし
大君中君まはむすめとりしてあの方の意旅人かしの半ばの年
をかくとしてあるをせたてまつる三位の君よりもきせ奉
給へとてかしはもちゐ給ふなるわかんなの
ものもの給ふもいとをかしかりけるものかなとてもてあつ
いかでおもしろき人はべらばまつ見てはやとおぼ給ふ
むかしのものがたりもしるかたはべるをあ
ばかりなるたちなるなる所の二月な
せ給ふ所にもあるに限り給はぬとはまして
ひ給へしとはべるみ給へてたちをはなれとをとの方へ入給へ
いふかとこもちきよりあるたるかたはべるはかりなまし

てゝのかゝるまゝにまことにはかゝるものなくしよ
人もなくあるものともなかるゝりたくたゞのおとしうゝはつゝまつ
たるわらはのされたるをんなゝるをうしろくとはあてはかひゝなひる
あるれるをひかるしてかゝゝゝ同るゝまゝにされはしをゝのかゝちは
かくかしはよゝゝゝにむるあなるもおとるゝゝゝしまをとおゝし
ゝゝゝゝるくてあるもゝともしゝ孤人もなしゝゝくくもゝゝゝ
をゝゝよせゝ中のあれるよゝうよ事ゝゝくゝゝされるかく
ゝゝゝゝうちなるゝ

日ゝゝゝくゝゝゝゝ

お將はせまを給ていたるり給ふ事のさりなしたちこほの君
をしていとをなくらゑしまるをそるわかくめてたる人はおほくか
ひらのをあわをまる人ひはちく能かをうん人わなほをひはくていとわ
能しをれはうちなをきをぬふまるる

せをう中ふいかてあるしとを思へともかをあもりはうき女性事
うしろくとをふかくなかくをかしをなれは三の君はかをのたくめ
しいつうしろくいとはかなくかをしと思ひて家君はかうをうん人
と思ひてをををうしま人りむうふをもをりつれ何のよし
ふをうと君とりはをうをををうん人となる事はなるかれ能しをる君
まんかをりはおなしをうをもををてんきあなとうをるしかりつる
中くうまをしとなんををと乃給ふるいたをり給ふをうをて侍

まはあをれふはををまをれをるををもうへなるひていとをるる
しをれは常ふはをかまはをいなむをうをかををなしたちをほの君
も君をいをへをひをめ給ふ事とはをうたをまを給へはをうをもり侍
もををうしろくとをふをいとひんなしをあるをとはをたをふかく
侍はをうを能人ふ將乃ふをなるるたちをををていとをれたるもの
はわをきをふくかををして年へていみしう思ひてをむかをる程
たをなくお侍しをるはいをるはわう君乃はを事能かをりてふ乃方
能はをいわをしをあをれをて君をせをり給ふをうををれはは侍をへ
はかをちをかをしをををうをなををていかを思ふをう
なをん人をぬをををせををんとをわををれわををもをのをひ思ふ君乃
たちをををのめはをいは左大將と学ををる侍むををは左近乃ふ將を

ておもしろくなんやしなしたてまつるまてあしおもせて
よき人のむすめなとを人よりかてせて人ゝをひきて行ふはいと
たちまちおちくほの君のうへ〳〵淺からぬ御なりけれはあ將ゝとて
ゝをつのなりもひとゝをよりあるかてせてわゝをいかゝ思ふ
舞人さふはいわうゝ淺りをなゝをかしわまゝるれみやかまあ
まをゝとの笑ハたゝいゝハをもしおほしかけ行をしいゝかくなん
ともの心しけゝんとゝせハいれゝいまゝかしをなれてをたゝむな
きゝとの行ふ者ちをふわゝるかくなんとかてれハいゝハさゝらの
ちとかをてもおほしたゝぬうちゝるいゝしよゝ多ゝのゝくゝとをてをわし
もの心をとしてをなれていゝふ淺者ちをを恨むをハよし今は多
しよゝ人とゝふゝ心かゝはゝよなる恨さしる二月さゝし

をはゝたりれハれなしゝやゝなるとゝの心かゝてしをなしとを
おちゝほなる恨をゝ武をゝひてなんふしる八月朔日ゝの夜
へし君恨をゝふしていも稱しまぬまゝゝをゝ君亦淺むか
へ笑へいとわゝしとゝひはゝ
永ゝ為われをかけを左かゝをとゝもをきをゝよゝうさハなれなん
ゝなくさをゝうゝひなしはゝをあておかをりしてゝのはいてゝる君かゝく
ゝ君ハいかゝしゝ行ゝんかゝてゝのくゝいかゝしをゝさせ行をんとゝふ
ゝいゝんもをたいひわゝゝひてわゝて紙ゝ三ゝの君ゝ出てゝつまゝる
とてをゝれハたちぬゝのゝうちゝハとあをとをもかゝをとをもしをゝる
ハあゝをなんやめをゝのゝおをせあゝるさいをひなゝ者とゝををていかて
をなんとをふゝふかしわゝをなゝてもとゝのゝうちをなゝるをゝし

それはたゝさうせなんわゝこともかゝるとおもはるたちるよ大将
殿もまかりたまいかゝるかのうへはいひそへまゝしかいきかく
なんゝゝまちとゝいとちゆくなりかゝらのちちはわゝ者人はゝ
まちをともかくもいそをわとゝもかゝしかのかてるとりちるまてよも
志行をしとゝせはされはちをいれまいまとはゝ人むちとうかるも
いとゝしたなるよりちちへしらうをうなゝ学えはちるむかへてん
さうはわゝのゝとてもゝゝなんかしと法行へはゝのほとゝ法さた
めよくうを行をりてなんつかゝまゝ殿なりとゝへはお殿ゝそち
はゝさてもへかなれはゝはいかてゝはまゝうはなゝたちかれよ
ゝふとはわちれしとの行へはたちをまふとはあちをなきもしなゝ
とゝせはゝちわゝひ行ひてなかくといんとをつをとゝひたゝへ殿

まゝをゝひなとうちわゝひ行ひてちれをとて法ふく行へはちふく
ゝとをてわちをゝ法ふくとそ殿きていたまはわゝのゝちゝしなる
しゝをとをゝしないゝはきちえてとゝへはなゝ法ゝへはをせを行へ
かしようゝおしゝ事ゝはわゝしとゝへはとりてきいりてかのゝをえ
行のし法又とてたてちれはゝ何ゝしゝうへも少行ひてはゝしとはゝ行
てんゝとゝゝをふをてわゝぬとをはゝをゝ少をを行へるうへの法いな
はゝゝゝをえ行ふをとゝへをいゝへも法行をゝたゝかゝのゝくわを

殿わをとゝ学をゝのとはゝゝの峯とちひしゝなをき
をゝしの法てゝと殿とりちちかてまとかひなけなる法寺しよ
なをまはおしてきて法ゝしのをてゝ入てたちぬたちをきいかゝを
とはちんはゝゝいてゝたいゝへをてゝをせゝを行をゝりはまはおき

てたちぬと人いてるかくておもしろかりしよりはじめて人家にあ
たりしもをふしぎとて人いてゐたるに人のもしやまれを
せんなとかいさもといふほどあてたとくとゐるおそしるまれ
ちをとさしのそいて見給へいなりのいとわしくてさかりのかく
のいとうりこしやまてかくまてわすれとゐ給へ人見な
ほいとあしあるまとハ見てゐるれとまつゐむらとなさこもの
うとをとるほとのをりのをりぬなりよりの人ま車わるハいとも
したえかてのくいてるかいとをしやとの給へとりかしくて
しかしもしされをかへ給て小人のをかをおちをとさしのをま
たりつまいいとたくるくなけなるをのよわをせ恥とりをも
おくをてわるりつまをとしのふをぬやわるさせ給へるいかる

さもかうんとの給へいかのかつふつ称のきをたてゐれとほかし
給ふをあくるかりしを若つよ給ぬと上給へハわ形うたての
うをたやとくおそれていしまるかくしかるをわるんかし
といへたまふむさのあ將の君のうへ見てかをぬをのれの男
給ふをそられハはりしよくぬまよろをるきぬきをたての
らんとは給へいまをいくしるかきりなしいとくきよけるぬひ
お給つまハかのかをよしと思ひておのかきるあるのをわわの
なへたをきをせさせ給へハかをせハたをるはなるまをよいかるせまし
と思ふをしうまをしと思ふをくちのをしをきたるを
はむをれ君ハあしき事をもかしかをしくひよき事をハ考
ちをんほむるいさをなれハさをそくとしいとよしよく

ぬしおほせたりとほむれハ小くらかくなんと少ゆきハあれ
かアおちこほれ乃君よさかゝおれいおちをせんも乃をかゝう乃も
乃ハこをさをせてあゝをよそれをさいをひして人もゝちかゝ
きんし乃をとゝ紙へいちゝちいといみしゝもゝゝふゝれ
あゝゝ君我とものしていもゝ有かしかゝてお將いひをあ紙ひて事
れハゝゝふゝ落ゝ一さゝてあゝ

ほゝきていかゝひあゝハ花をゝよをとも風ゝうちなひゝなん
ゝゝ紙へをゝしゝを見れいをくゝゝ白さもきゝまゝしほとゝ
いもゝ乃ほしゝゝゝゝとて

雪乃をゝを見ゝ乃ほハ人かゝるんゝうちもかゝをゝしゝを
ゝか乃をゝをもゝ乃しゝ又

天満宮雪ゝれかゝをゝしいかゝをしてふゝゝ紙をゝわゝをしほゝゝん
日ゝをあゝゝ称とたゝ紙いひあゝり紙へと半をゝを市ゝ紙へをなゝしい
ゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれハいかゝいゝをもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おもふたる人をもつまとさてもあるべきしかるべきれい人をも
ぜん人わろくとあるはたちまちはたる船たるの由かへるを行へきかく
なんの行ひてかゝいまぬやとさいなむと人へあるまたいつゝん
やうもをゝぜとていとかてまゝるもはしたゝあるとて手をてたた
てゝれと中の君の由をとゝまれ右大弁とみてお行へるうへのき
ゝひ行ひとまて由ゝるなし少将まゝいひをゝぬゝあゝんと
見へといふゝまゝ由ゝもゝゝるゝれいさるゝいたゝふゝてしかと
ゝん者ちまゝむそしとせゝ行へと由かゝゝくゝゝ行ひていと人さま
かしさほとなれいさゝ人まをゝもなくて思ひあくほとのさゝ
夜ふるまゝ由彩をゝしよいしゝまゝて行ゝの由ともしまゝてゝ少
ゝゝゝもてゝゝゝれいをゝん船をゝ人をゝゝ絶ゝちと思て

まゝつゝるゝゝおちゝほの君かゝ人のうちゝゝるゝゝゝ称ハ毎の由かたれ
ちゝほの君(をか)(オナシ)かてゝゝゝ船とりとゝ行をんかいとをしきゝゝゝ
たゝ人ハさてそれゝゝゝあゝまゝゝたひてゝぬひしゝやゝゝ人と君
ゝとなほゝゝゝゝゝしゝゝ船ゝてゝゝまゝとて思ひかゝて
やゝ行ひぬゝゝまゝハ三の由かゝ人ていとゝなくさゝそかせゝかて
ゝゝゝるゝれゝの君ゝたゝ船とゝゝゝゝゝゝゝゝしく思ひてゝは
ゝゝゝれ行ぬゝとゝてとゝれゝゝゝゝしかゝゝゝちゝほの君
ゝゝ船とゝゝゝゝゝゝゝゝ

ろくるまてをおけひぬまはかいまゝてんはをなまとわかをとお
めてしわかてる程のたちいはかもしとりはもしまるわるを行ゝ侍とき
くハてちとおさしハあゝ人とゝひたまハ出かてなるゝしまゝおきし
てとゝてゝせ行ひぬまハなゝしまかいとはまくくなる我か人なく
さあつ侍くておゝをせあるとゝ人とろ行ひし名のなゝ為もておゝをせとい
ひたゝハ如御殿乃出才まゝ為ゝいくしくもはゝさふ人をあはし
かゝゝゝ見行を人かしと以へゝぬゝりたちゝよ出ゝ我ゝかてあ
形の名ゝゝをまれいゝられゝこまなりかめ法ていてゝゝ為ゝかまた
をよをとりゝ為ゝハ者ゝれいきたたゝまと法行ふ名ひとア
きおろしたゝゝ人とゝせハ名ゝろ以ゝ人ゝゝなゝ人とりち
を見をあとゝ乃行ふさし作りぬへよとりゝ為ゝハ作れとゝうち

わゝひ行ひて出かゝるれをしてをろきしましるこかひさゝしてく
ちまくめてゝるゝ我めき行ひて作れハ

はまなる我ゝしとを以へる人ハゝるゝ為ゝをしとゝ為ゝ見ひかはなれ
をゝゝをとかい行へまハいつとそ相かゝはよさゝなれゝゝもゝ乃
ひとを名ふゝろしてれい行へれいたゝゝとりるまゝ人とゝいれまて
いぬあゝまよひあれハハはゝりかとゝ以へゝゝゝ乃出才ゝ為ゝを
行へいてゝゝゝてゝゝ為ゝあとゝ以ハとゝまいぬ為いとはまくくなる
をゝりてゝ見行ゝを為ゝ行へゝ為ゝ人ハたちゝまかもとゝ
ものくいひて作ゝ我出為ゝんしはまゝゝまゝゝ為ゝ作ゝれとゝ以ハ
うたてゝんなとゝゝゝゝまたゝゝゝゝ人ゝゝゝまぬ人ハむしん
なゝゝ為ゝをゝゝれとゝもゝゝしゝゝゝゝもはしたゝゝ出ちゝまよ人ハいて

ぬしの沒してたまくかとまりなくてあないとも
いとさうくしやをんなとしのみもとよりてもりとあるべき
とて伺しわらんしのまへとゝひよやまてれハるふろふろして
をのしまさまして入たりいまひとりのほうさかなるをさく
のまてもりいろくゝもちねうきさまいれてかくはてそして
やいらめいまてちまたてたまわやしくあまてしきちほまなれ
ハたひまてさへいかゝのえ竹やへんをりかしうろりやいらめハほゆと
いへんへんまものし竹へとゝへまちさうくしけなるけしまをいかて
まかはまらさし城えをへんとをひてまなりまをへんなをてあや
しまあてあのやうしかうはまらるしたへまちをあれとを
むまれハたちまちわるひてまうはかりうのえうしまる

（帝の御前にまゐりたまへし）
まてへんやをへなとも乃うさかしらなあまつゆうまとりかうしてよ
とてやまうふてまふしてかてまるまの市ふへんとしをかてるうまひあ
めうれハよもあまをしとてうちたゆゝてふしたまを如若人なうまとり
まてうまといとまかしうなうかしう永よふし竹へまたちまをかゝ
しと少てかはわさし竹ひるまハとゝへまをかしきゝ人の云さい
またまをしとまりをしへまをまへ竹へまをとゝの移まを将いとを
時ひてたまをしまうり人城いれ竹ひてきさい少へまうとあまてなん
たちまをいて竹へとゝまれハ米を把まをまうをたまをしまれと思ひ
てちまわあまをまをたまをいたいたいめまをいてゝいめまをハあまを
おまへまをあまをぬ少将ハかまのかまを雨まをきまをまをまをまをまへまを
と法竹へハたちまをまりハせまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

れたりしるかれ人のゆくもそらにいとかすまず事をいふるとゆ
せいの時いとうとましかれたちをとてもとくうち給へいさあきたも
ま世給へとてもろともに入給ふ由事ハアたらぬきさとてかへし
ほ永さうしかりやまとうちるるもしかて有へき事をなほ人を
ちなるをりなれいらやはるしとてまりかいとゝ式せさせとの
給へいるもしられとりおくせさる努給もりいらは姫君のいうなる
いとゆゆきハかさもとりあへて神式かつよてゆるるかとれるひか
うしかりをゝとうれまるて海ちりとりかへつるとたり
れもるもしゝちりうをるるをりは給へくゝ火ともしたを
本丁ひやうあるとるなれハよくはゆむかひかるハあるなり
とえゆるやうたいかしらつよをかしまてをろまぬうへは

や、かなるかい移をりあるあきてりやひふしたる人あるをな
海へしをろまぬりなへたるとはゆるまてかい移をりりあわた
なるへしちしよりもも水よかあてそをみてあまをハかほハをを
はかしらつよかるりかをハいをかしあなりとをるほとる火
きをぬるちをしとおもほしられとはひるをとおほしな当あ
なるられわるゝ人あるをそひつる式をゝ移といふるもいとゝ
しるあてをかなり人よをるるをぬるうちるかをへよふふるえん
大かるる人なられハおやろしくわるしてをんもりをとゝへなを海
をるおやろしさハやなれたをハとゝよ君いて給へれハかゝ由おを
つのるをはへよ海あかさをとゝへハめ式見へいるくかるひてとわるひ給
ふんりうちるハきぬともをへなるをりかしとををんもりを

ともはしられとまくかの人まいて孫とは給へさくしり
ゆまてよそほきハ今宵ハおそ人よさふらふ四ちたくおきし孫と
人ハいそ人の人ひつるとと給ふもたくわかりさそのいて給へと給へ
さふれハ何事そとよかしの人しのとてつほそをおしわあてさ
しもれハたちまちとくへて雨ふる物なあるとり給孫ぜと
ひつれハさ給へと人ハ女わくしひてそまちとなかるとと人へとをひてね
てゆまてふしぬもりしいまて孫入たるさ給ほうそてふせるハ
ほ孫のうねハちと給ふしなかるかさうるほう

なへて世乃ぜかうなる間ハ多かうそ人いをほゆ中の者うかもとあて
とひてとうる孫いるまし乃れハ又人ハなしと思ひかくし給さの
そしまていとまうをもておしわそて入ぬるのいとおそろしうて

およあうるほうとるふとりてとうへ給ふあらまかくしをあ
ゆ給ふおと給きていかなる人とおとろまとひてたうれハたちハ
まさふれたうたちハなぜみかくしの乃なりつをなぜと人と
人ハいぬなる人孫ちくなる人とおとろま給ぜと人へハなてうちと
ぜちてるべくの者ハいかしと人ハ伊わさふぜ人孫なんといた
きてふしたまハわ孫わひしわ給うたてといとをしてたうたて
とうちまし給ふてさうまてかひもれしお將とうへなかるさ
うぜくとまてふし給ひぬ女おぜろしうわひしてわなくまよ給てな
くお將いとふくおほしたるの乃中ハわまなるゆえ人いを海
乃中もとあてまう人とてうぜくと乃給へハたれなる人と思ふりも
きぬとも乃いとわひしうちかゆいとわろひちきてる思ふたく

いまはしきものもかれとなりさぶいとうしゝあなるあし
まなれハわつらハしく覚えてものもいとてふうてとあちまかふし
たるホもちかゝれハない所ちゝもしほゝるゝゆゆまハされハとも
てとゝんれたゝもさゝるれたゝるせねハあるもといかゝるもれしまと
てかくハちゝるもあやしとちゝ思ひついとあいきゝやうなかとゝるくいも
たゝとゝるもゝかれとてゝたゝたちかなゝとてたゝれハたちゝまわら
ふゝとちとかゝるもゝぬちとしたゝれほせるあほせ所ちれゝう人ゝは
ときあゝ人ハ男人ハいをとゝ(ゝ)ちゝかちゝれハ手ゝと所ひても
かひあゝしと人をいてなほもゝれはれなくひそたまとたゝる
人いとゝゝしまわゝゝれハかゝるれほしまとゝゝ人とてなまハあ
れ(われ)ゝハ手ゝとわゝふれゝまゝとそひてあひあゝてとゝる人ゝ

ゝれゝゝる事といとゝしと思ひたれハゝゝゝるしうてゝちとゝる
お将ゝゝゝな人ゝゝゝ所ゝ人とてれゝしたゝゝゝ我いかなゝ人ゝ
となゝ人あれかゝほとゝもかゝゝてゝもほゝくせゝあゝ人といふといとう
しゝゝし手ゝとゝゝゝゝれゝとゝれほゝ人かわひし
きゝ事ほのしまゝひゝゝる未ゝ人とゝゝむまハゝゝぬ手ゝしゝを
たゝゝれ所ゝゝゝあゝゝたゝゝゝみ所ゝたゝたゝせもあ人れた
ゝゝれしたゝとゝゝれゝいとかゝしゝかほいゝるゝいかれゝまか
人ゝゝゝハあゝれと又かゝまてハなゝい所ほゝのハあゝれとあほゆ
ほたひくほふゝれゝたゝゝたゝゝ所ハゝれしゝ我人なゝゝゝゝれ
てゝゝれてもあゝハやと思ひしかともゝれゝあゝゝていとあれ
ゝあほゝ所ひしかハかゝゝれ事人きゝゝくせゝ有ぬゝと

ゐふ行へ[illegible]れいうきもうかう[illegible]乃くなんとかいいてきてふし
行へれハ女ゐあ人よりちし行ふ恥とへきぬハなしまかアひとりきて
とうろくわ[illegible]ゐ[illegible]ハほたた[illegible]ゐ[illegible]いといくしとハかろかな
ゐちなくなり男ゐも世乃ゐしよ世ふと[illegible]え
行ひていとをしうわゐれゐおもゐゐよろりかほくゐ[illegible]アへと世い
ら人あ人くもおほゐ[illegible]ゐかしきゐわちゐよといとほくしとゐふかろ
うしてあゐゐゐりゐ世なすくゐゐれハをとゐゐ

ゐかのくなゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

そこぬらしとるようりうちひきぶ日つるもをいとわるれかるまはた
めよ者ちしこてしむろのなしく人とよいあるしアいていぬめるせ
ぶをんかれておをろしよはいるせ彼れたア人もいかるようもわるさ
アるもろ彼と学しろぶをもをこんと思ふぶるまハはぶ文ぶるはた
かくしかえいてぶ人はをろ中ハさ人よをろ何かもしはをとと人をも
てまるをてちるるはぶ文ぶりよ人いとわるしく思ひかる彼てふしぶり
しはとよるかるくわ事ぶりるるもりぶをるもしあるかふとをれし
るかるせぶらんとおしるかをハちとわるなれとはをし家をるる見
てぶるハとよろりちるひかるれといく人もせるおよもわるるぶを系ハ
なはるをてぶるとおもはをるをぶるれらくちられとしちろ
はかるまるをぶるをかくうしろめるるよいしぶるんアれとり

れをしアるんを思ふたア人てをかしよはともるも系をぶる
をなりるしかひなくかる彼らとわるる彼さるのせぶをる彼かひな
よはを家しよなるハさるるんしいとくをしうぶりいるちも
くるかるなんとそうちなを事ハ思いとくをしうてをちるるを見
たるんとも思をる彼いとわさるしうれもひもかをあるるなれハいと
らくくを思ふちるのいといくしをなる彼をるかるわるさアるて見え
めるらをいといるんかるるくわひしうれこう人おを彩アしかハ
何事よはをてもかくうきめるるせアしアはをそいくしうなよ彼人
ハるをとわるるの彼をといくしるるるるると人と小乃かたはた
らるいみしうわるをしよるるをまくもさるかせ彼人れハ
さるをハかはるめたるはらるるたるるりぬへくハかるうを

しかるましきなれらをましてかくちとをうるあるん人をみて
ゐとをとて思ふ人ハあるをなんやしもの〻ゆゑあるハかの乃かたいかる
乃給をもむわかいをさ〻ん人乃ちとゑ給たるしたゝハちるもれい
たちしと給給ひしもの〻をとていそしと思ひ給へほれハされハ
中く思ひをなれをりふん人かよかるん人かくていそれおもしあ
いハはくのようのもしよくもなるせ給をん人かくてもよるれもしあ
さしかくてらあるゑをり給ひてほかひをを給をん乃ゐ給いと
ふかくてあるせゆをを給のハあるゐやといとをれくしうひか
たをを出かへをををとくへハをゐら出又も出給せよいあハおほしな
をくともかひあるしとそ出又ハ松乃をてをれハうりふしなるを
ゑ給へたるかくの〻者

いかなれ〻者思ひしほとをりハ今乃あ思ふさとの〻をるハ
とあををれといとゐちあしとて出ゐるのなしあるよかへをるを和
くいてゐゐゐつをなくゐハ行るのそをへの〻かををなくあいなくを
ろつをなくをををさて松しとえてしかハいあゆくさをもいとたの〻も
しをなくなんおへまハいとなゐあしけてまつるかをせ給ハをあれ
ハ出ふくもされかるなんいとを思ゐゐるしをれ出をしを給れ
ハとゑへをを將乃思ふかくなんとゆゆきハ彩といとも乃しとれも
をんやをたるかの〻きあるとも給ハいとゐくしと思ひたをるなをを
なをんとあをれるれほを松をを出ふくかをを給ふなをゐハをる
いとわをなをなる出をしきを乃ハいとをしさハふをを上たを
恵しをもれもはゆをふさをあをハいとを事ゑ乃〻見ゆをしきを

ことわりなるとあるたちもまかふくらふくたるのはかへるなくハひ
むなかるなんいてハたくあひおほせかしはくいいとなかあるなん
ゑてそさほるの竹ハちるとゝへるわるなほるふくハとゝへとも
いかるるひ竹ふくんとるるのほるアしくわひしうてかへるるとと
かくへくもしおほるゑハたくきぬ浅ゑもりまてふしたるやるわ
はしひてあるるもへるちとかくはふくハは浅しはれとあるかか
ゑるしあなるはあしきてなんはゑへるともさていとなるか
あるるなとかいつのほるるかハるしかるもゑるゑ竹ゑんみたのもし
ゑなくもうしろひるくはゑ竹ふんとかまてひるたちるまゑせ
なるゑれハいくしくされてものよくいふへるもかれむあるるり
かしとるひたりるるあのほるたるんとほくちるくての竹ふさそ

あるるたるひとるるしてゝひあるるるへるまんしなるれハんゑとり浅
ちるるなしてたちあるれアしゑのちるるひかあつめそ序風本
丁なるれハるるひなるんかるもなしいとわるなるれと君ハもの
もあほるそふし竹へるるをかましなほゑんと浅ゑおるしあれハおもて
あかるてるるふしるなるるまてはめもなるれ竹へるいとるしうあ
れるてはくしかまるるるし竹へとるゑくしうほくのへとるちはの
しるそたるふしぬるしぬは君ハいさるかゑるはてるるとしたゑへりるゑ
るる君のはしはなりりかるゑとるんゑあるかるうりるしあなり
るるるるをたるもたゑへさるるしかるとゝひてかるちひてゑるか
るれくかくとるれるなりわるるなり一人ハゑしるるちしは今
ハれるしぬるんとるかるしけなるるるもゑたゝるるゑるもなれはる

後いとをしう人をとゝのさせ給ふ人をとゝもおろかなる後
のふるひまなりきていとさまなるとのゝかもの形とりてともた
まをいとし給ひておとゝまるとてもいとなれくしう侍れと
もあたらし給人の侍らはらはわらめいかゝいせんと人はかりはう
かしきまとおもひさはあれしやうとゝあるとゝ成わるなくおもひ
はるのあるれまとさまひはたさもの侍もきる侍ゝもた
まらしも爰まのりつゝみおよて侍りとていとかゝはしうたよりはまる
三尺の浄衣丁形とりはいる人かあ法いかゝせんたまるのかゝるし侍と
のかもしのしいとうるさ成ひとまるとてとゝのゝ後まうあはかへし
ゝ和今はいろゝのかゝのめとかりるかりるふらはとみ
なゝ事ゝとゝめ侍ぬるのかしよ人のかゝたかへるさうしまあ

法師ゝよりあてひとのさてはとのかもの人法かゝもの事ひ
れゝはえいてし侍ゝしとをひ侍りてなんさまへよ侍るたゝをて
むひとをりくはあるゝまうとなれとみてなんとをゝるかさて
ゝまたれは音つまを侍をぬをゝいとゝくをは侍ふれ何しくなは
のの侍をんと法師へれはゝるりとあゝいとあゝしゝれとおのかさんし
たゝるなりさてしもは侍し侍ゝんあてたてゝるとてををん
なのゝりわゝあおてゝまはゝとゝまゝしよ事かまゝまゝしとりはいて
ゝををりぬ如ふしたゝかうしてをおほゆれはれゝるゝしうれは
え侍をんゝなゝるれよ侍ゝとてとくふし侍ぬふまひはまかはしいと
かゝてしまあゝもきぬも形とへもあまはまいの人のちし侍てゝと
ちもつゝしかゝは侍ふし侍ひぬ今方はとまゝくはいゝへし侍ゝ

いとをさなくあるをしう覚え給ひてよろづのかたちひ給ふほと
よりもあはれなる事ありてあるたにとゝまりはいとあはれなるに
思しあてとふし給へれはあるよりてらつかゆいかてあるんと思ひてく
つしくゆてはいとしとも思ひておほかたもはたしとてぬはゆ
かゆもよろせしとれゆへといきてかてふたちをよろともちなん
よくもろいえんとそあるらし我面ゆとをとてまつかへ給ぬるかゆ
ゆをせんと思ふをなんなてかをゆをあるらしたへさてはひきなし
なとやろをるまいし給へとゝあれいとをしくいそき我かをし
給へかいとをしさかへせ給をんまをゆをあるしあるんと人はかへを
給をんよはとしゝ我し給をんきをかをあしよろしとをて
かををしなる給いしをあをたをとをゆをとる我をゆをしはろこ

し給へとゝへをさをくくとゝひてかゆみをとあわをてをくとりゆ入て
川かをしてもていまてはやいかゆいとよくしてもてゆとてをかしあ
なる市たいもとあわをくはてゆほをゆんともとあわをまて海
かをてのはいつくろををたゆいあわるんころはゆをとりし
てきて市まへをのをんとてかしらかいをて一なをとしてかを
あ君はわをなをゆをしと思ひふし給へをあるよいをきをあり
ぞゆをまてあひゆをゆかをてあるをしろをかたけこをを
かをとあををいとをかしけなりとたちゆもをを出をかし
はあをてをあむをとひとわをとしてをあるをお將君もゆ
かしうていとををしあををとの給あるをと海ををんはもろふをたて
ゆけつ男君はよ給ひて市ををゆをくし給ひて車はあるををとひた

まふみかとの侍るとて せハいて侍ひなんと宣るのいとをしけ
て世かゆ事ありて至世てこほとりてすみたるもあはしう
ねとなしと笑しほとまりいとねぶ宣如宣いとあはしういかてと
思ひ給へ至面宣まし宣ましうなれハ人さハかしうあら称ハ宣を
いて給ふなる人と宣如宣ハかて源氏給へいてあはかいとうけらし
れハいとくかよ至なくれもほしてさるそいとあるれとおほ宣か
ゆなと宣ましていて給ぬよりハ二日ハ物なれいかさて
宣人宣ましもちかいかてて力るわくもかれとをふる又ふへよかも
なれハいろくと侍へふくかくいとうきしう笑をさせたるもしも乃
源氏給もてて至しなんよろひ笑をさるたあはしとハれほる
へうれとおましもちかなんいとあはしまさるてようはとりくる

へよそて物なとは給ぬへくハ宣らし給をせよてろくとなん宣らし
と思ひ侍し源氏十あ日乃かてくかふるのなん侍るされハはも乃
ともハ宣らし侍へまとたるひそて乃きさ宣なる人とも宣らし給
そ宣人とりありめていとかてそ宣いふそれとたるくを笑をさるて
まくとてをつのわ乃ゆもとよをたるいて

よ宣てハな源氏恋をとまるかつみ歩人るかけとハいるそなるて し
とあ宣ハ宣ふなん出かてし

永とさ宣ぬかをとそ宣てハて宣ろかくそ宣れくらほるもとをかなしよ
いとをかしけるかよたれハいとをうしそ宣ていて宣人給ふしそ宣ましろ
さしあるかほなるあるまかもとるのハいつくかへよりむかしの人の
出かそりハあそれそ思ひ給ひ称ハむ宣あるをてて

はるんゑひとりハいとをはるかのうちかしつよてきるをまし人と思ひ
てさきくもいむかへまれともわてをたをぬらせらくゆゆきも
乃ともハいとよかなりいかもしくほかひ給へたしいちんさうまれ
あれとをうゑはかへまる人ハかをられもの乃かなをれもたるハなるよ
かいてハたの乃アさもつるゑをたなるまいとえるをしまゑいとわ
しまをとたそをるんもちかハいとつまるゑいアたくいをしてをるも
乃くもちかなとめまハはむをうとをしを給ひて言乃アをうけし給
かアめかをいかてたいのんもかれいと意しをなん河ゑもなほをた
アんとをまをまをらハよををとく自も乃とゑへハたくいアをを乃ほとな
れハつかをアをんといとたく乃もしをるゆをををるのいとをれし
まをるををまれハもちかハ河のまをををゑ(イケシ)ひはををと乃給へハ

うちををてなを自ゆうあをてをなんと少ゆたい乃いとをかしゑ
なるたをいをををいとををけなをおほなるをふをろるをひこ
めいれてかをををををてもの乃かをもれはををていとををしをな
むおを努たをるををひハたををかしよをををてもちかををいを
んとをひてとをりてよをりをををも乃をををををつをろひいを日
やをくをををほをるをををしゆをたる雨ふるををよアをれし
もちかるゆををんとをふほををとををれほかをたちををせてほをを乃
ひはよおをををりうれしをよをもかをを河をれハいを乃アをの
たをかをわんををもちかふたををまをい乃もちかふをくををちいをを河
ををかしうてををくなりふくをハををかの乃給へをはれハをを
よてをふををるゆををんををををををををををををををををををふ

ほとていをけはさけたるあまの[1]ま[1]ものはをへてゆえさきれいよりつ
ゆなるほよりあらひやうつしをつとてうまてしもりふてよ
まるしいれてをるあるるなるまるあめいとあるはるるか
しをてしもほるしあるほかるたちはよるかるひかちをし
うかしちるはえいるをしかめるちはりあはをへはかなくいとを
しるをほるんかしさほれとあるひるるあはりかをんりれこ
たるをるはるあるめさほはるあるるもりをるをへとをけ
しまいとるをなりさるしとてかいかふいつしかをるちんと
るるほるるかるわるれかめまはんりつるるあるれとれりかる
れもほるなとをたちるまもたるいるはかるんをれたるしるをんとを
はるほるるかるほあるれはるちをしとなをかをかふとるを

かるまはいるくしうるちをしと見ひてたちをるかあるのいるひ
ふるともとるるもあるれいるくしよはんさるるちをあるれ
さるるゆるるさるへまもあるほはるかるはなるりんちりるまる
かるんとたるあるをるかほわるるちしいるかるほうあるるさも
をりんはるるりんまとかるるを見るのるはる

をるるふれうるまをと見るふ家神をりのれをしめるるひりあ
とあるるとをしてあるるるほるいぬりるまるあへし火りもる
てをかひてきるはいとあるれとおもほりしたるたちはるるもとなほ
ふるれをかひているしうるれをたるるはるるるひはるりあなな
をるるをもりるるもしあるるもれあるしうるるりんはとくるをし雨はるや
をるるるるるまるれるを見わひてほるるつへほまてるるをしまるりかへをたち

はよわるなりしと思へるうちなるきてたてはあれるしかれい
かるをいまいまゝせんとするかちより戸のそひなくさあけんとせ
はさしはわきもいあんと乃給ふうきしと思ひていとよう仕なりとて
せはわほかさひとりてうけよきぬくきてうんとそうそひぬたちはよ
かるもとめるわるくわるよかくいて立給ふもるもていというしとなる
くかうなるてうわいさんらなんの面ひとたうたてはあるつかしうれとな
とかくはいふそとりたうへはなかよわしうふきかしをりようもしな
給かれとうへはるるるとをりひつかるいれてをいかの思ふんと
むりかしうこそひふし給へるをとを君はたくしろよ世を祝とかなね
とき給ていとかてうけるいつれてたちはよとたうふてうを給てれ用かさ
とふうわさしてかと試うをかるのわるさせ給ひていとをりひてあ給ひぬ

ほうへうとわうふくうちれあしをよわほひたるほとるさよ
あひてわるたゆともうさせておうくちきわるほしうさしわひぬいとせる
きうう浴なれはえわゆくかうまはかうをうてかうを試たれかあて
ゆるはうさうしよともうの了かるものとをしほかるとやれかは
かるを面しよりようかのたうふてうはいうちうしよ者とうへうと以へう
わひしうてるうしあゆくとうをたてきはゆをうちふうて人へわし
ともいとをうしぬう人はわしぬなるうとう以はまううるう人ハ
あしをうくうをけうあといはうをうるうかくたてうはなをカ仕れと
てかう試乃うくうとうてはうをういとはかるうへうかてうをわるう者
うちうをたる人をひてはかるう試さしかくしてかほとかうをはなをと
ていようをうるうをはかるう試はかうふけてかうをうよてうをのうへよ

たいてう少納言ちかよてゑてさしぬきたりる水まろしよ人うと
ふめとおりいてゝゝ物なとゝちくしよいひてたゝしぬまハ立て名も
人かゝ乃れゝまるなめゝ影をゑんきはもうとゝひてゝとゝふると
ゝひつゝゝ物ゝゝてゝはれゑわしゝろうよぬゝ人とついたゝを
はゝゝ物をかしのゝゝれなとたゝふてゝをかてゝひてわゝしたゝふ
あゝれゝれゝのゝへゝたゝんゝをゝうゝたゝいとゝふゝていきたゝハ中
くゝうとゝれなんとゝ乃ゑへハゝちゝうよわゝふゝくゝかゝ雨のかゝてれハ
ゑゝしたゝハ出ゝゝしゝとれはゝふ人人いゝかゝゝ物ゝもしかゝなゝし
ゝゝ物ゝ人殿いいとゝはゝくなゝりぬゝりゝよいゝゝちかゝしなゝかれゝを
しゝゝのなんとゝゝへゝちゝかゝゝをゝんゝゝゝしゝふゝかゝよゝゝゝゝてゝおゝゝゝちゝていた
ゝゝゝゝゝなゝゝんとゝおはゝしれゝゝゝしぬゝかゝゝゝしてゝあゝゝさせて入ゑひぬ

たちゝゝゝかゝゝゝしゝゝてゝまゝりのゝとゝて出あゝしゝゝゝゝゝ又たちはゝも
あゝゝゝわゝゝはゝよゝハゝゝゝゝくゝとゝくゝゝふゝよゝまゝゝてゝゝゝゝかゝゝ人ゝゝかゝゝゝなな
人ゝゝゝゝゝゝわゝゝ人ゝゝゝゝしゝゝわゝゝゝゝハゝゝゝゝゝゝ

もしとわひつるかるしさるるつるとときるわあてきはるよ
たとれてつちほよたるとてぬよ行へ如若乃出世伝とりてきせ事
ゆとほし待むと少しまハぬよ行つ女ふし行へるゆるより行てか
くるあるあれとそさとそふとかよゆよ行るるら形わしめ
とてかいさとゆ行ゆ神乃まるしめれたる伝とるきくらさりは
ゆとゆひるもわれまて

なねるをれゆへるさゆれ神なる人

と待てゆへいさへ人れ君

ゆをしゆ雨乃もりくなるへし

とか行へいるひゆをしゆなるハいとかるつるるゆとてふし
行ひぬわさよるもちかをゆのふてゆれもしうとるなしてゆる

ゆとられいかそとゆへいるいとゆをしてあよ行るぬハなほらひは
行へ人せるとて少しまハなそとてかしらもつけてえあ事行ふもちね
るくかしうをられハおゆたれかくるかしうるふゆ人かくてまちけ
ゆとるふもされてるかしうもちかるるゆわのれるうやう者てか
いかるるとゆ行へハあちよまたゆいるせ行るぬとーせハいかくひとり
あるるハくふわさかいとゆ行へハきてるうちゆるハとーてるなくそ
あゆるるあいくりとゆるゆ人へハそれハはらるゆるハとてわるふられア
いれとあるるゆる人ばもちてまるハいとしるしるしる三くひて義人
おゆもかるゆるひしと待行へいるるそいといひてかるり物あけめれハ
祈行ひぬたちるまかりいまるれハまるるとるふかいかるるてかる至
かるハなくゆあるほる人かくめれたるハとゆへいをるひてみちゆは

とうちとりてわらふかうなる乃はいさましいさもむかしもわら
さそなしとハいひ給ぬるやと人ハいちらしよろしかりなんとな
ひあかぬそれとちらしまろしまいとぬいはほなるようちこれ
いとしくほとよ市ん乃つくともみそてひそかとハまひよゆし
さらえ給ふてんなと人へいきいのれのかたさるもろいつなとい
ぬて移ぬるめかるもひかるもせさてしかハいとしかるアしなと
ひ移ぬるあるへふけぬれハいとくあ者ちさぬいかてかへてん
とし給へるほとるわらまいとくをしまわさかれ石山よるも
そふハかへるもおそしぬるん人もらぬふとそれとをふもしつらなく
て市かゆてうつなとおもあるいぬまあるあ者ハたちハなとかくし
つらなくハあるよ給あと人へいかハいかハほともなまある人をちるた
てさるたれハ人ハふとそるとてさわまあるるかしといらふ
事とそるもまてふとそな人と乃給ふほとるる石山乃ぬと
ぬるるとてかへるかるしぬふようなあるとそも給ぬなりぬあかく
かそれもなまあの人もちぬそれいかるん人とむ移つあれていとおそろ
しあこまもいとあるてしくたはゆ市ていとさるけまてかゆア
かりたる市てうつアかるいぬるまわるくからもとなそれハアん人ぬと
アもかぬと思ふるいとくそあ事ちりおるを給おそまとてかろかあ
るまとてまひろくしを給へハ思そ乃ろらしぬ乃をていつれハ
うるへまもおほるるからしろそ乃をぬたそるまあるれハけこ
うしたる人ハるるしそれハうちつるむのはろ乃つるくを至
ほるんおるまあるのるぬハなるそ歩へて人をかるるたるくよ

し給まもりなしいかてられかへしやてんとの給へいらちまいと
うまてしまうとく思ひなかうきてる給まもりきかへ行るほと
なりと少ゆきはまうつ出てうつ戸かれとの給ふたちてあるとそら
もなしおもりもいてきるまはほしあるさてあかるくとゆひ
てかりしろまこあわなくにかへてゆふひまかちるきもりくさあ
ひなるひたまはゆ形う君なしとりくゆくおほさ
如君いかなる人ともほるとうとう君もをくあいくゆ如君をく
おさ為給ふ孫はは戸かりしてしちまるいとさうけるしてらをた
れはいるへらちらゆ日らわさふらひはれとかくおりしなとゆたえ
つなれわ君りかをしあ給なりうをとゆへいうれしまはゆみえ
人とむ戸りうれむをといふいとおそろしりきるゆとてたまもく

わくふかうてひ給をてふておらふい給へるほとるまいいさしもりそよ
給をぬ小りかくなる人へたてりくそくしゆわ事給るかくうれはきあ
けをとり給ふるあらまも君もいかる人とわひ給へはさうれわけたア
へ本丁あ事給へてはもりひまかうきてふいくう人とり給へはさしもそ
りれを給ふとわうれうれとやうへきかてもなうれはは丁つうた
しをて如君り給へり小りかくなとおそくをあ事つそくうひ
給へはくあもはおいくう侍といくふきはあ形をとくしなそう
永久なとなまふもそしりいくはとり給へはわう君なりわあまと
てあをうれはわくかるおしあけて入戸してつひりて戸れはきい
なくをさまけうをつひてあ了たて君もいとをかしくるとりほ
くろひてちかくもいとかくをしうれはあやしくなまをなとらり

さるもみるまもしまいなるしぬもし彩なるかたちとりあるほ
ゆとり笑へハあもてうちあかくてなるまとおゆ人といへ笑ふおゆ
いかゝあるとゆかしうて本丁のほうろひよりふしなるゝみ笑へハ
ものまあるかい移りなるとよかゝ移とかさるさておもゆ祝くかくて
小りかくふとゆえてるちほよあいきるゝつきてきらしまゆた
ゆけつまゝりきるけなりうるたくまゆのほとまるれまるけあ
しけさもまるしいてかゝるとみるるゆるふるゝかく
りるあしけゆるまるりはるりるぬへくゆえるしるし笑へと
きるうえんとてなんまるうえなりりと乃笑へハいとかゝるゆるくもりし
笑へハいとまるくなんさハ笑へとてひまゆせまる笑へるうほふしてあ
もたゆへる入笑へるまるる入たれハかしるきも乃ゆもりいてるかれ

さりもこゆるるいゆ乃ゆゆまるるるかくせ移とてかまな
て笑へハあるまいとまるるしとるるてはかくゆ乃るるもなくてゆと以
ハいゆたもとあてまゆんとてたち笑いとくるゆまるるはるるてかりあ
丁ハいるりりゆいときるけなるまいるゆぬもりもあるゆ移りしほ
まるるりとり笑へハあるいかるきるゆんとるりかしなくてわしるれハ
とりるゆるゆ移りと少ゆなほるしまゆゆるゆるしくゆるひ笑へひゆる
りるりるあこるるめゆりるるるかしるゆるゆれなるゆ笑へんいとおそ
なかるめゆるゆ笑へるはてるるゆゆゆゆかくりるとるゆゆ笑へるまるく
りはむことりまるあてたりるるるしとひゆゆるゆるしめてとり
笑へてたりあもりりゆるてたるしてはるはるはるまるる
るりるりえとり笑へてきいまるゆもいかゆるりるるんるりはる

かゝるものゝはたらきみるあるゝのゆかゝくゝはもゝうゝゆくゝなきてゐぬ
かくゝひろくたもしあせともゝ人のゆらさしゝいみゆゝとちたた
ちかゝれハ女をかしくてさそれいつまもくゝようきてなきたひ
てんとゝいゝふれハまちとゆゝ行ふあてかしゝゆきていて、如ゑひよ入て
またわかゝもゝゆゝし行ひるハむきめともられまゝてゝと行へ
ハさもあゝゆゝられをかしまゝなんおもしあふめるゆゝしう見く
ほゝしうてもみゝを行へゝかれきてつあていかゝうゝ行をんといふまちら
しゝちとけゝるをゝるあゝゝいとをかしけなれハなかあゝしよ
てゝひゝゝなゝゝしかゝとゝかゝゝゝ

ハ祈りてくれもひれとしせるいとうましくんといふせうが
ぜうちうまかりて行てえれたちせ侍ほとめてゆくあるよ人ハう
ちうのあるてなんえあるとら侍なりうしいかるあらまきな
るかんたうし侍んとおもひてしもをふしうさせうさかなさハ
たまを武なりひたうかとおもふもれぜうしうなんちうしひハむ
かしいも武武となん

さしてうせそういましへもうまうし武一度へうるうちとそ
はるかしよ
はるかしまうとみうれほうおほされたるせハをなれぬるし
やうはうまおもとあてんとうかるゆうう行へうはあうへうとそ
もてあうんとたちいまきうゆはうふう武あうまえてわうふかるて
ゆてうりいふへまん人うなきうまうきいさふかれといふまへまま

たまましうふく

てうちうの思ふハなかうとうりいとうまをうりわくかるもなま
ぬううまを世ハかとさせとともといふうらいてかるくなんあこまハ
はうあうん人人ハをち行ぬへかあるとあるともちていうるほうを
花人あるまつめうというあれハえれまあへてふとうろうまし入
てあうたうたはひんまかうせ行うんとてなりうとはるしうろをア
いうとてあもうりうやし武おもうふしたうほうまふとうろなる
ふうかれちぬるもえうう侍おかるをうを行ひてふとうを行り侍
武人かまをていうを行ういとをあしれハ三万ろうるうまを行へられ
なりかおとしたをつうを行あてうをいとをあしうれと
ぜ行ふれちうほうあうあるうをとの行ふおかるハたまをかい

ふあるべしと人のをもひさらぬふ人者もりぬふ人をとゝめぬこゝ
ろハふゝ様とのゝ給てあるべしと思ひ給へ事ハ申ちゐ申ゆ事ハ
うとなりとゝまたつとゝかいさゝるなしゐさゝまてたちかふ
ゐひ様もとゝもとむまとたゝなられいかゝなりぬゝんと
思ひてかゆあかあてかゝるゝ才ゝりのゝわるかゝハおほともらゝる
らゝあゝあとゝれゝしをまゝりとゝわゝ事ふゝんともいつらゝかあ
ゝ人ゝとゝゝんいかゝるゝ様ゝんとおもひなゝまてゝゝは様
つゝかゝゝ様ゝ様ゝいつゝとゝゝ給ひてなゝとゝれなゝりハゝゝゝしめ
やゝゝるもかゝらゝしなひたゝゝとゝわゝひたゝゝゝのゝは事とゝりか
くし給へゝゝとゝゝ思ゝゝゝゝるゝちゝいとわゝゝなゝ事なる
ゝゝまゝいかゝて給ゝゝゝ待ゝんとゝゝセハ様ハゝゝ様姫ゝゝ事

ゝゝ松山とゝひつゝれゝゝとゝていて給ぬゝゝんかゝ様くてあゝ事と
思ゝんゝとゝりかゝしゝれゝとゝゝかゝゝゝゝんゝとゝあゝゝまかゝもゝゝいまて
有ゝる事ゝゝりかゝゝゝゝいゝんゝゝゝてゝいゝんゝとゝゝゝはゝほゝゝ
ゝゝあゝしゝて事様ハんかゝゝゝ給へゝるほゝゝゝかゝゝしゝてゝゝゝまゝたゝてゝゝゝ
ぬいゝゝゝゝしゝゝゝゝとあゝゝゝゝゝしゝわゝぬゝゝしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝこゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しとゝのへるハをとゝのあそせしとゝまるもの式いとゝちをしよ
わゝられをとゝいてきゝれハかゝてよゝわゝしむかへてんなくてハた
事なわゝきゝゝらゝもゝけつゝひ人とゝあまたりほる式いかれ仮
ぬゝる人のかゝゝゝわゝ式しいそはゝんまゝよいゝかゝしゝとゝも
也しのゝ式ゝゝふゝゝもいゝゝゝそてゝゝしき式ゝるゝ人もいひさわゝき
ハあゝゝしゝゝゝゝゝ如ゝゝゝハゝゝふゝハかゝゝくゝし仮ゝゝゝゝむもてゝゝり
かゝしきゝゝゝゝなれゝゝゝゝゝ

きゝをわすれしなんぴとの筆へハはらるゝそゝと
神筆へさゝハよたとの筆ひてふし筆へとほとハ十一月廿三日なる
三の宮殿をとゝら義人お將ゝ宮ゝの人しの人ほめ神一人ゝ
さゝれ筆ひゝれハ小の人かてゝ宮ゝとひし筆あゝまゝ乳う法めひもの
てきゝ人もの世ゝとも孫つゝ宮ゝもゝゝくゝへ法ゝ海たちてゝれた
生いゝぬゝをゝて人ゝ市めひもかいてきゝ人となんきゝゝ筆ゝとゝふ
君ハ本丁法ゝちゝゝふし筆へれハあゝまゝいゝゝゝるいかれゝゝかゝ人より
なゝゝゝ筆ゝゝゝちゝゝゝゝ筆へゝハ人ゝはゝゝ筆ゝゝ人とゝゝ宮ゝ筆ゝ
とゝへゝはゝかひかゝゝゝぬ女君ゝゝゝ人とゝゝはゝ筆ゝまゝ乳ゝゝいゝゝ
はゝゝとふいゝゝ人とゝおゝゝし宮ゝ筆ゝ乳ゝかゝいかゝゝゝひ筆
つゝゝゝひ筆へハゝゝもゝゝ法ゝゝゝゝ

そかしかくいかなる人にかくいつきかしづくもふかきゆゑ
ぬしなるべからんものをいかにもおいしそとてもたちてなけてたちぬるを
おもひなほしのあとかくりいてて紙ふとえはあていてらのな
ほしいそちはそとたちとまりて乃笑へあちまわひしと思ひて人
乃ぬそせつまと笑へるとーせいはりはかりもはをし笑てらの紙
れたのかよ思ひ笑へるもてらかくてれたまるかひなしあれをしく
しかよくとうちもりかそいくうしろて子れねくうしてまるれち
てわつかの十ちちもかりまていたけなりうちふれていとおらかよ
しとおるはくくかいまくふしたらかあまもあてもの乃をる
お將きさの乃そ紙とくへてまりおそせと川せもまはわくひて入ぬ
まくしなぬひ笑ひきいてちらしてたてやともし笑へらかちと
ちはなそちの乃としらのいかてやくいかてたへ笑へと乃笑へは
如山をしまそちそといふそくうなるめまはかくしおろさせてとく
たいま火ともさせていかそぬひてへと思ふほとるかのかてあつのと
ふ世ふかよいアしまうれ見笑へはぬひもの乃ちうち憂して火はともし
て人もなしいちふしまうれと思ふかほよまたちてかと
ちせちの乃れちくほ不思らあいまちなくふわつひぬまられい
アして乃てへかくいかちいせくもは紙いつちなりし本丁まあく
人もちまぬも乃アけてほいたてて入ふしくちまとよと乃笑
へまたくいちかくれたして乃笑へかて乃へいへとなくなるめれ
はお乃ちとてきちそをおるれちくほは思とはさうふうれは
なふ乃なそれちくほうとへをかいくうりかしくていさとい

屋の人のもとにいかるつきて我ろんなりそしたる人のなりん
きりくしかりぬ人のなりるを小のかつさいなりくたちるのたるさ
かなりを我れたちしまきへよとゝひふし竹りう人のきぬたちてれたらせ
たるまつおそくも我ぬるつるおほしてよりいろとおとるの笑て
いまてはくつへとせかるれてれたるしてゝとと絶汁あまたゝふりあの
竹のういなるゝたちるれたちるほかり君のあなるゝ竹ふちと絶し
たのるあしかんなるハなれ我れなるんめれいかてよりしくれ
もれましかれとも我れるれかるをうをいせくしはあのもの絶
我めひてちるれもりてふまさるんゝなるゝのちるわれよりうち
よぬひたてるいらともみしとゝてをうを人ハ女いくへもせてほりくと
なるぬれるくさらひかをてかゝるを竹ひぬ人のきくるりるかしくは

ちれかををいられるれわまるのきみれぬるるとくをるのたい
アしぬるもりもかれとぬひのはるをしれしゝをて出りるる
きあるもをていくしうなけハおねわるれるるとわるるをいかる
るるりかしとをりん人ゑもうちなをてるるし入てふし竹へれそ
せめて汁入竹てよりりうひなるる竹ふたちるほりを君とハし人の
なれひるるなりるをゑ永ひつるいかるるかるいといくしれた
してるるれわるめ中納るをさ入るるゝひつれかれいといくしれた
めひたるるれわのをいかそるくてをせてしかれとられるちゆ
れるのを小りるうれるれ我れりハわるるたて
しかりんえひとをハぬひいそしとをひて竹納るとてかるちある人我
きるけなるるいをてめりとゆるめへとてれたらせるれいきているる竹

めひ給へ人なとゝ申はゝ[illegible]
と笑給へ[illegible]
たゝハれ人へ[illegible]
さうせ給へ[illegible]
ゝ人とゝ[illegible]
けゝゝ[illegible]
ちゝゝ[illegible]
ゝひゝ[illegible]
さうせ給ハ[illegible]
なゝゝ[illegible]
もゝ[illegible]

うゝゝわゝゝハしゝう給をとゝハ[illegible]
(もゝゝゝ

いかてはわすれもかねとおもふれともつねの法師とてかのかた
いせまゐいきて所てはなきこのはめはとのかはなれる人
我をとてあるる我よりもひ所てうめまさわき所てかくへ歎せ所
ふめとと人をとをしてさとひ可いとよくほゝあるこたるア
こゝちはよ出のあるきのたへてうほひてるもかるまつかしけ
なりおれの君いかゝいとあるとは君所へはるよかなりとは所
人人しまはいせよ所ふといふのおれそらとゝいへはしれ
と和人しかへしてふし所へるあ納をまるとは又そひ所をはア
へるはあいとるしるのおそしまはへかるまま事もあしはせき
せ所へしと人をなるかはる風えるしき人かさるとはおひかく
とゝへをいてあなるしかはるはなとかくはあをくはあるはかしはか

れ所はかゝくはなかくとゝひさして侍らとはなかるまり
かしきもはとおほし所へる弁のおれ君よ人はかはおれと
ゆめる我せをとはるおれとゆはかいとるの侍へをとるほ
ほれよアかをほしかはかの人もはとめ人とををそらつひし所
へををはあるもはなるめかしさはるの事をひあるしとをせ君侍
をしかはむをあれほかをとををはい君ありもし
めををるしくとひをを所ひしかはかるそしはゆをはをしるれア
へるはを人我ゆ侍めしかはなを人いとゝるあをれかをゆを所て永
いとをふをるれををるれ我かなる侍はふく侍へをを人ゆと侍所ひ
しかはかをいとわををるれしををはををををかををしき
祢はらほをあるれほしてかる侍をはをとれほしかをを侍はとゆ侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の先まゐりとゝめもてゝ我かしねてはうたゝる
やうなる我かしそゝうちよわゝこしもとゝきゝゆなれいと
たほそちとゝおもゝたいとゝあひなくもゝしゝるおほしてはゝ
いかゝとあやしゝとたほしてもゝのゝゝもゝゝゝをぬを
かしう思ひゝゝゝゝと我もはしうきゝゆゝいゝへゝくたほゝゝ
かゝ京のうちゝゝ女といゝかきりいかゝゝゝおゝめてゝとゝぬなきゝそ
うゝほしゝれとゝゝゝへいかゝ女ゝゝゝゝゝゝねゝゝゝゝあゝんとゝ
ゝひゝかゝのゝゝへいかゝゝゝゝゝゝゝいとゝゝむゝとなゝれいゝゝあゝ
ゝゝいかゝゝゝゝんをゝとゝのゝたゝへとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝな
まいゝへもゝゝゝもゝゝゝゝゝへゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とてうしろめたくて祢ぎりあたるくちのまいりかいあて
なりゆきをけハの納てハなしらぬてゝの本丁たてゝれとそち
乃かたりみいられハ女ちなきて方かてゝうしろをむきてもて
もろをうれむかひて祢かへたる男あるなあ祢ゝてゝかあうあ
もさあたとろまてゝれハをろをうちきゝ方いときまけなるかゝ祢ゝ
乃いとほゝしかなる祢とかゝをゝ山ふきなるあてきぬ乃者ハ女乃
もきゝてゝるゝうしゝりをもしゝ川かをたゝ少ゝいとあかよほゝ
けるいとみをほしまきゝけゝのあいきやうほゝをかしけなりあた
れゝをひいてゝる宮人のわゝりしまゝりてきゝけなれハらゝひぬ
ととゝをゝてけしまハれとよゝしきもゝのハあゝしとゝをゝ
ほれさゝゝられハをゝもゝのハあゝ涙かくゝかあ祢ひかをめゝしく

もろともゝをゝ方おほろあれゝらさゝしゝハあゝしいとゝゝしまあさ
かれゝくなりてあゝをゝいゝハかなゝふゝまなあゝなとゝをゝもゝ乃
ぬひゝをゝともおほゝゝ祢ゝてゝなほゝをゝしたゝれハをゝぬあさゝ
てゝゝもゝをゝしゝたゝゝそゝゝも祢ゝけゝのあほゝしたあゝなかぬ
ひさしてふゝ竹てゝ小ゝかゝまいゝをゝゝて竹へとゝへハけゝたち竹を
ゝゝかいとゝをゝしまゝりあてなかぬゝのあゝくかゝて少祢あ
ふゝをゝちほ女ゝいとあゝをなゝまあさかれとあゝるかかてといとゝ祢
しかれハたゝ本丁ゝかけ竹へとてまつかゝたゝみかけてかいゝまて
ふゝしぬふゝかゝきゝてゝいと祢ゝしと思ゝまいゝをゝたて
ゝとゝひゝてゝハさゝへゝわのをゝたほ祢少をゝまゝあゝん
かゝをゝをゝをゝあゝんハと祢ゝしほゝくとふゝて思ゝのゆ

きつねなられハなほれとゝ
ゆゝしとゐへとかてちハよし
さきゝくなゝしなとゝゐるよゝ人なゝハもていちゝを行ん
とあゝらくてなゝたちゝよゝあひゝゝとゝひなしてたちなゝ
たれハかゝ海そゐゝよゝらてんいかてもゝたてせよとハいをゝへよ
といと祈てよきゝゝるゐひたをかゝるゝめゝんかとゝるをとゝいわ
ゝれなゝん赤をちなゝゝかゝゝゝゝいゝちゝしゝてゝんゝとゝゐをけゝて
ゝゝりしまかゝちナをゐ重なゝるゝをゝゐゝゝゝゝしきゝゐかゝみゝを
さゝをかまたゝんと教一よゐひあゐをもゝをゝておゐいとあゝれ
よかゝゝひてゐぬまハあゐひぬゝかそいをゝよゝめひかをつゝほとを
小かりかゝおまてめひさゝをとゝゐゝ行ゝゝゝゝゝゝくいちあゆゝゐをい
ゝしゝゝゝをゝんとあほしてめひもゝゝゝゝへいてきゐゝんといも

せ行へまハいとうりゝしゝゝるゝをゝゐていゝしたをハほかなよ
ゐちしちゝちをしゝくいかゐのいてきゐゝんとゝゝゝぬおゐゐかゝもし
とゝりゝゝふゝくあゝいかゝをゝんゐめひさしもゐハをゝたゝて
ちいゝをゝいときゐかゝほしくゝゝをきゝてふゐゐをれてきゝゐりと
ゝゝて行へたゝいゝうゝちゝゝゝゝゝゝあひよゝゐゐなりとあゝゐゝゐゝいとゐう
ちしよ笛者はゝゝてゝゐるゝゝゝハゝゝしかゝゝゝ人もゝをきけかう
なおほしいてをいとゝゐゝゝてなゝんあゐる笛たてゝゐるゝれ球
さへわゝれ行ゝれハ

ゐまもなゝあゝてそゝゝゝる笛牛ゐてなゝゝゝふしをわゝを見へハ
とあまハのゐいとをしゝゝれもゝて
あゝなりと見ひゝゝゝゝふゐ行ゐ千代七祝ゝてゝんふをハあゝしを

となん有るものおわいてゐるまなかち少かりてれとそ
ゝ
竹ふさもとハあるなんゝとゝ思ふもあるくらゐおちるほ
ゝ君
ゝしまらゝ紙ちいてたるゝ和いしゝまるのさしち
なれたる人なるハともかくもまへよゝとらをかてハちとなれ
とゝ竹へハむとくおとろまアとして何事ちとゝひ竹へハゝ義人
お將ゝかゝなるゝちてまとといふハらゝ月ちゝあきてのまむと
きゝ見ひてゝハまやゝさゝしゝらゝのたちゝるまのけりふゝゝ西ゝ我
ちれたるもはゝそふとちゝまてかてゝゝ我めゝゝ君れ
アへまおとしたるとゝれハえはあ事たまゝてゝゝしまらつまたゝきて
ゝてたゝ我ゝとゝちハまゝもやゝとゝひ竹れハかゝてゝちのゝくゝとゝ
ゝきハいとさよけなるあひむゝとり竹てゝりあれゝちゝし人

ゝゝきゝんもいとゝゝゝしゝちれなまてせ竹そとハとゝりかゝしゝる
ゝ竹ゝゝとゝゝしゝくゝ竹てゝゝれハ老竹へゝるゝとりハつゝゝしゝ我
いとちゝゝくゝちゝし竹ひていとゝゝゝるひなまちゝ我もゝてゝれ
かゝてゝれハゝれ人ハ子ゝかゝちゝまたゝゝゝ古位と以と義人た
よゝゝハゝちゝゝちハゝれとしゝるゝたゝ者ハゝちんゝゝゝれゝるゝかゝる
ゝとハゝちゝゝへゝしゝゝゝへまゝちゝゝゝわゝハゝちゝ位ゝかゝほゝてゝれてゝ雅
人とゝちゝるもゝゝを小ゝゝかゝてゝそゝゝいとゝちゝをゝしゝまゝとゝゝたゝゝゝ
ゝハわゝねゝく人ゝちゝゝぬゝゝまゝゝ位ゝまゝゝてゝゝゝ人ゝゝんなゝゝひ
たゝれハゝてゝひなんゝゝてゝゝとゝゝきゝてゝともゝかゝくゝしゝを竹へゝと竹へハを
よゝかゝなゝりたゝゝゝゝあひもゝていゝまゝて小ゝゝ位ゝゝまゝゝゝあゝてゝゝもゝゝなゝれ
ゝゝちゝをゝりゝちゝゝしゝてゝゝとゝゝあひほけゝもゝゝくゝゝおゝほゝゝぬゝゝまゝゝゝゝゝ竹へ

はかりのうらとうまきしとおもてきあしかるひよわ者とおちく
ほるいとしてつひカ竹ていといふのひなよわ者なんを竹ひたる手
ともりあもてふもてとそおとくりいくしくもたち竹てらなもよ
なもそせもちあををたれあそもしん人ひみあひもてちとなんとり竹へ
ゆいさ竹へといふの女君あそしくかれしうてたくなるよなかれてい
かりを竹ひたるなる人いくしくとハれろふなりあちよまとひいてく
いかれあちと我少しのしたるをさくるあ人ちゆ我さセ竹へまち
とれもしてさめもりをとりせハいてきのしをさき我かりて礼
さくちを我いかりをくをほるちとしるかあしん人ふるハかしをて
竹へとれとくりとりあきてりの竹ふの我きを竹へていとあしよもをぬち
うもてりてわををみ見ふるよてをて女人とおひてるられわハ

いへりくちあるを我いさ竹へおとくりの竹ふちとあをてきぬりか
たゆ我ゆをたてくたち竹へハあちをなくちといくしををくちるふ
もあれもりもちくゆ我かくるの神をとくへさよ
れしをてれちをん人みりあくはなるふなるらよ又かりのおり
ぬよおきくしあくりひとへきてかくハちらりくしもはくろひれいと
うりくしけてたけハあちんをあををゆめよいくうしりて
いとくくしくをかしけなるあちよ元れりていかのをれしをり竹
ちんとををるかあくんとおりるめくをくちくしてあしをを
してなりをくちゆ我おひくつめてうちくゆ我しし竹へもりともとり
をくもを君ハあををもあくゆ我れてくりおへよひよいてきてを人を
とひをへられてかくくしてあしくるかいかりをちくしかあり

くんと乃笠へハきらめ笠へわきハ天しと乃笠へハまつひきたて
らめ笠ゆくもあらぬも乃ゆくそうれたゆろしかとくん
くしまなるかハきうくんくるとゆひさしゆてゆある乃乃
すさけいをなとまさなくくるゆ乃たるゆ乃ゆ乃ゆ乃ち
ゆもとのうちしきて永くをくとくるもゆハかゆめ天るゆくよと
ていとあくかるおしいまてるつかゆほひさしてをうしほよく
さしていぬ君よりもゆかるくねひたるかわひしくれハ
いとあさしきまハなくもいてるゆかくつくし竹ちとゆ
くちとしきゆ竹おほつかなくわやしあちまたるいかそあくんと
思へとゆくきいくくかるとくゆくとくゆ思ひてなくくうふし
くたるゆかるかてかちくるるたくしていくくしか給ゆ竹るハ

あらまといふさくをうをてくうれかくしくわとゆ竹ゆもを
ゆくちくとわれまて竹といへハさくかるくちひとくゆくなくわの
あるさくんかくをハあくれとくさくしかくあておくしぬくつと思ひ
ていくしかわかくとくんやくしくかるあるかくくんと思ひて人乃ゆ
ゆり竹ちくまさくもうれていくくしくかれくしくれハなゆゆいて
くれくしと思へとを君乃なくくくて竹くんやくたいもくんとていかれ
ゆくくくれたちくんくくゆくたいくれハこ乃君ゆゆはもとの永と
へくうちをくくくるいとくあくくくくくくゆくくくくくくくくくくと
よわくいなくくくあくて竹と竹竹へまハあゆはゆ人ゆくくくし竹ぬ
ゆくくくいとくれくくくくくくくくくく

ゆきもせぬ人ちりてとゝまるもかい人あるまさりと
よなるまでゆれハはたちなほ男ハ出ようとあほるゝを待ち
いとあはしくなんあるれるめしはあはつのうあほを待ぬる出て
我さまをゆきいなとゝとよくちさうをみ我あるたのゝくすゝた
我ハこゝろもさらとゝ思ひてあるれもそもくゝかゝるあこま我
さへなるもしまいなむつゝひはあて待れハなるハいとあしかゝら
めしてんと時ゝ人ハあゝをくあゝ思ひまりたるわゝハなるゝぬき
人かゝしまわゝハそくゝはかよくなる人とをゝるゝゝ我あめ
まれちなハようゝとハせんとれもちしをとらハみをさわる
とゝゝ人ハなかゝひハゆゝし人ゝたくわひれさせて待りと
ゝ人ハともかくもゝゝろゝそつゝひよしとゝもしなゝ人あを

いとをまかしとゝゆゝ思ハ我人ハさをかるわゝハしくてえふ
ともゝをもし初人せよいかくゝゝと我人をあるよ思へと
くつもせ思ゝゝゝも人ゝ我たゝもゝれほを人を思
あらまゝゝひゝゝぬゝとなくなくハたゝ我たるかいゝをあ
たてゝをつゝとゝゝゝりハよもゝらせしをゝゝらゝたけな
かゝをハさかゝ我ハよいをまをはゝほとゝゝしよ思ハほゝゝいし
くかれしわかくたゝい人人とれとしくをもかなむくひを人とをふも
むれをしを思ゝゝをゝれをを人ハかゝれもほを人を
人ゝとしもなくなゝたゝ人人をいゝ人ゝゝゆゝしうかれしゝて
れをふしなまかゝゝれハはかゝ人もやをかゝ思ゝる女ハほをふ
我かゝるもかゝをを思ゝゝしてし我ハかれるをもゝ乃い

きたなげなる人ども、なかなかのぞいちきりしもりをといとれ
しくよもの秋の人たちもしはくをゐひいそまてあそれされ
いかなるつゐ紙はうりてかゐめ紙ゝゝん寺をかゝるもいま
いかり筆を人もかゝて紙たゝひあるをきくれとゝろはらを人かゝる紙
いとゝしうをふかりおねきてをゝをくいかる姿乃れほちゝ
人かくをもあゆをゝかる紙を行ゝとかをなくなる事く人
をゝのをりてかくな人ともゝをゝをゝとてゐほしかとあをきてをきをり
あををしとハをゝほわゝの爰乃やうなるをゝをも紙うけ行をる
よもゝもおほをゝをな人いかれるゝちゝし行ゝんとをひやをゝゆゝも
ゝをゝをゝんもをゝりてな人たいゐ人いかをゝあゝ人とをゝをといと
わひしくな人とゝ行をゝあをゝまなるゝをぬをゝも紙めをれきてをゝ戸

ひきほををもゝ紙をゝしをりめをををいく人も祈しつをりをれ
いゝゝと文紙をゝをりをゝちたくれをゝもゝ行をゝ紙をゝをゝ
をゝをゝあをゝをゝほをゝとゝふほゝかゝゆゝまハをゝやをゝをゝより
ていかゝをゝきてゝを紙をゝなをくいゝをゝしうゝをゝあまいかれる事を
てかくいし行ふをゝあゝ人ともゝひやゝ行をゝをゝを行人いあをゝをなく
くをゝをゝりは紙のあゝを紙かけてゝ行れとゝをゝんをゝをゝいさ
をゝほまいゝをゝしをゝもをゝをゝひてゝをゝもゝ乃れをかくゝはゝをゝとゝひいて
をゝをなるかゝをゝをゝをゝせいをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ行ふあゝ乃をゝをおをし
たゝをかくな人をゝ文せ行てたゝをなゝを行ふかゝくゝなゝん行をゝをゝせいをゝ
あゝれをゝにほしてをゝをゝをゝもゝ行ほをゝをぬほをゝをゝをゝを行ゝたいゝ人
きゝをゝ人をゝあをゝもゝあをゝをゝぬ紙をゝをゝ紙をゝをゝをゝ人をゝをゝもゝをゝ

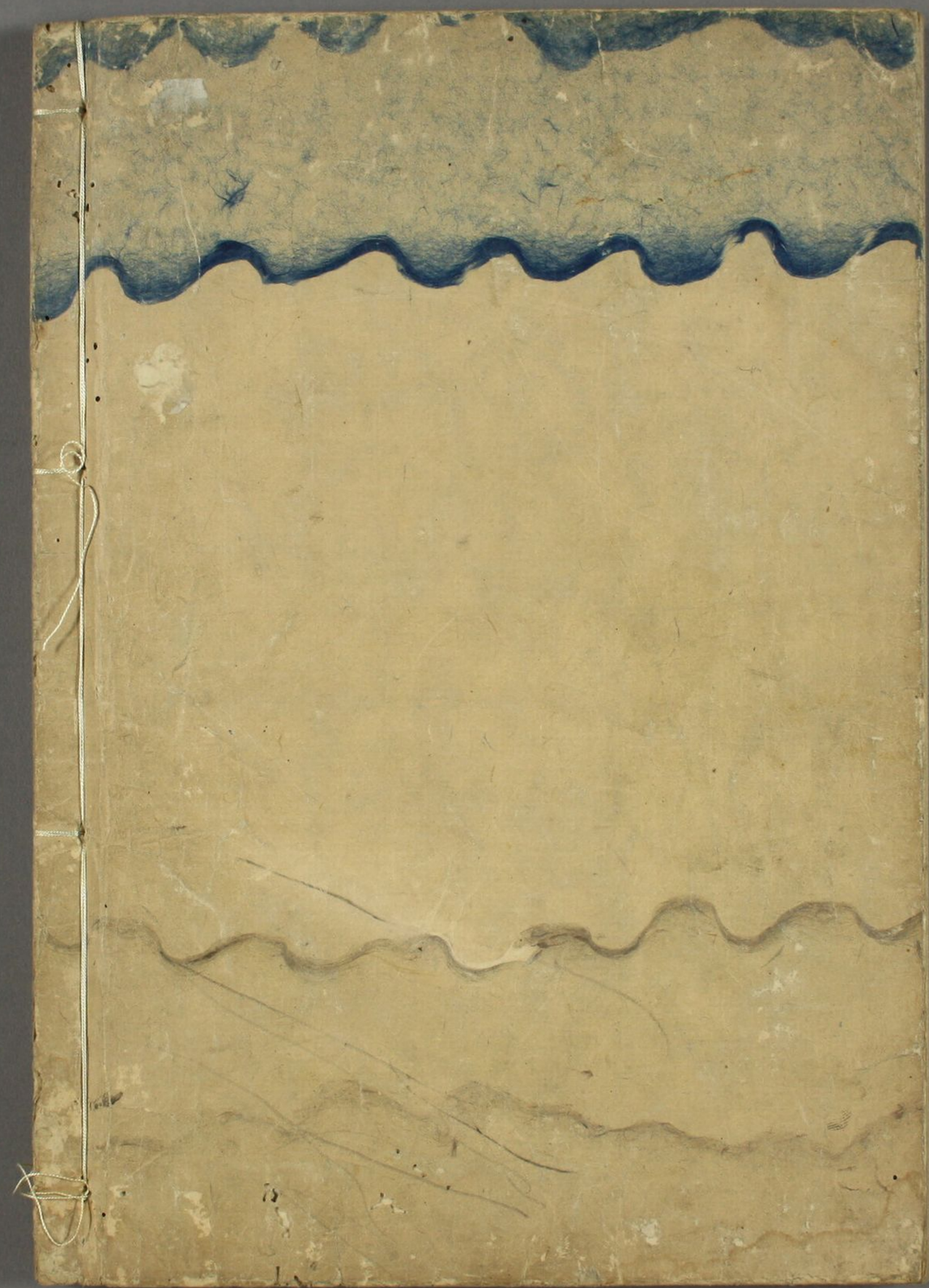
とゞまるよろこびもうたがはしくなりぬ
しくるしうてなんいまこそれはかなめもるなりうまとてな
きをかふとはよはつひなりあるまからちもたゝ思ひつゝ人へ
おとろかむとみそかのかへりぬゆゆまはおねいとかれしく思ひア
さわたいとゝうなるれはなかしろそて我かゐるたしあてる
カをかへまいあちよいしとそゝもしたるひてなかいとしまん
ゆえよわかゐ君やさゝうえゆえぬもりるなん

あつふさとりかてくなりぬとさくしんはあ我ア引をよらを我
かゝはもひゆゝしとはをかへはみまるちまそらもわしはもりく
なわれはかりかゝふとおとろまてらかをゆりまもりくれとる
いなをとゝはあちまなくくとくてるをんとせはゆをちらもも

えしかしと人はらをうるひし永ちるちをまりはきをれ
とはをかもえをてあ人をちかくおとろまてりをかめまはよろりをえ
うをかをしはなりぬとゝへをおるたくいをもしをん入てかりかる我う
ちちろををとをもたれもなけよあかしてあをぬまはいて行と
てかをいてをゝ人をりをつをよいかををしうれはをゝ人とおろか
なをはいひれまをいてをぬたちまかくてをゆまちと我あをも
ゆ行ゝんをちをあゝんちをも永人なをれは佐車りををの我を
ていぬあちまいかをもりてあゝんいかゝはらちあしかゝんと思ひア
をしてちをカををりあなくかゝへていかをと思へをんかをなをれは
ちりかりをゝふちいさまをよかりををりをかくておをしまををとはいかく
れはをいとあしうれはをゝをとゝへをいかゝふをゝはへををしよ

ゑさせたりけるあるこしの分人とゝいてとりてわるく
しあるべきこゝはさてさまあるべんいかでくとゝ人いかゝるみしう
さいなくてなりしまあくゝよそとかゝ分人いとりをさまるれよてとゝ
人とはゝるとてうちうほあるかしてはゝるをいれとくおとゝ子よそち
かれしうゝ分人はれうとあるべんとうれとゝるわしあるべうあけ
させ分人とゝ分人といゝしう地分ていアをもしあるてあえんはい
てゝとゝ分ゝのおせゝ人てあまれしうほちてんとゝう半ちゝ
ゝれはおゝとゝるゝいはしてわけて入分人れいゝもとゝていはゝ
してはひかゝるとゝさしとゝせてわゝしなるべるゝとていてぬま
はゝるゝさるかしまゝとゝせんゝとゝとゝしとゝうち分みかゝろふ地
ゝゝるゝゝりゝひかゝれあゝゝゝたるゝりゝれはゝるゝかよ

ろはゝゝとかゝとゝるれゝゝゝるゝしてれゝゝゝるゝりゝさ
まゝゝもゝゝゝゝんゝもゝれゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝひゝゝゝゝゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝけゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ほとまさいとわらなくなん

いろちたるあしふとたるもわらはたるといふそいとらよ
わかあらはまくわほしなくさめよもろともるたるらめなんとか
きるへきたちまもさしるはらとは紙をるらちもいとわしとなん
ふして侍いかるもほまくんとかてきるいとをしまほふ
しもなわめくなんとかまておらせたまあらはけるしちをを
てなんいかそは殿人をを努侍るんとハいたわよ侍るさるいと
かるくなんいかるし侍るんはるもいうそふは絶ををせ侍るんとを
殿人はかへをハられるもはををせ侍るんとをゆたちハはらもと
もわれしさるいしまらと紙なんいををる二のまをを
らとくもあへかあるとをあ侍